

令和5年度第1回 立川市文化振興推進委員会 会議録（要旨）

開催日時	令和5年8月4日（金曜日） 午後2時～4時
開催場所	たましんR I S U R Uホール（立川市市民会館）5階 第2会議室
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状伝達 3. 正副委員長選任 4. 現行の第4次文化振興計画の進捗状況報告 5. その他
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・立川市文化振興推進委員会委員名簿 ・立川市審議会等会議公開規則 ・立川市第4次文化振興計画の概要 ・立川市第4次文化振興計画成果指標 ・立川市第4次文化振興計画 令和4年度の主な取組状況 ・立川市第4次長期総合計画 基本計画（一部抜粋）
出席者（敬称略）	<p>[委員]</p> <p>委員長 今井良朗、副委員長 瀧川淳、 宇治康、小林優貴、鈴木美智子、高木誠、成清北斗、松寄ゆかり、 三浦康浩</p> <p>[事務局]</p> <p>産業文化スポーツ部長 井上隆一、地域文化課長 轟誠悟、地域文化振興財団事務局長 加登義哉、地域文化課文化振興係長 瀧研一、地域文化課市史編さん係長 新藤博、地域文化振興財団事務局次長 足立香織、地域文化課文化振興係主任 郡麻里</p>
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次文化振興計画令和4年度の取組状況について意見交換を行った。 ・次回委員会で行う内容について意見交換を行った。
担当	<p>産業文化スポーツ部地域文化課文化振興係</p> <p>電話 042 - 506 - 0012</p>

1. 開会

- ・地域文化課長の司会により開会。会議に先立ち事務局より、文化振興推進委員会の会議は「立川市審議会等会議公開規則」に基づき公開となる旨の説明があった。

〔会議の公開について〕

この会議は、基本的に個人情報等を扱うものではないので公開となる。会議の傍聴にあたっては、定員を5名とし、傍聴席を設け資料も用意する。議事録は、「会議概要」をホームページと庁舎3階の市政情報コーナーで公開する。その際、各委員の名前は、委員長と副委員長を除き、発言順に「A委員、B委員…」という表記とする。公開前に「会議概要」の内容をご確認いただく。

- ・事務局より、配布資料の確認があった。

2. 委嘱状伝達

- ・今期の文化振興推進委員会発足にあたり、産業文化スポーツ部長より委嘱状の伝達と挨拶があった。

〔部長あいさつ要旨〕

配布資料にもある「文化振興計画」というものを基に市の文化行政は進められていく。その計画を作っていく中で皆様のご意見を頂きながら立川の文化をどう進めていったら良いのか、どういう風に繋げて、後世に遺していくのかを考えていくにあたって、肝となるのがこの委員会である。市長がこの委員会に諮問をし、この委員会が答申を出し、それを計画に生かしたものを作り、内外に発信するという大きな役割がある。地元の企業との協力や、フェアレートのような様々な文化の発信などをどのようにしていくか、委員の皆様の貴重なご意見を頂きながら進めていきたい。

- ・各委員と事務局の自己紹介があった。

3. 正副委員長選任

- ・推薦により、今井委員が全会一致で委員長に指名された。
- ・推薦により、瀧川委員が全会一致で副委員長に指名された。

4. 現行の第4次文化振興計画の進捗状況報告

- ・事務局より、第4次文化振興計画の進捗状況について資料の説明があった。
- ・委員長より、この委員会では委員・事務局関係なく「さん」付けで呼び合うことの確認があった。
- ・委員長より、第4次文化振興計画の取り組みについて、新しく着任した委員から順に意見などを聞き取った。

(A委員) 文化というものは数値目標だけで測りきれない性質のものだと思うが、この第4次文化振興推進経計画に載っている数値目標というのはどのようにして立てたものなのか。

- (事務局) 市民アンケートの結果や、催事の入場者数などを基に決めている。文化芸術に特化した催事をしている地域文化振興財団の企画だと、著名なアーティストのものだけでなく、市民団体のイベントなどもあり多角的に押し量れると思っている。
- (事務局) 補足すると、記録している数値をみると、そのころ流行っていた催し物の傾向や、コロナ禍による主催者や観客の動向などもみることができ、この先の環境の醸成に役立てたいと思っている。
- (委員長) 文化芸術と数値目標というのは難しい関係だが、私たち委員が市や財団の予算や活動についての判断をする材料にもなるものである。
- (A委員) 立川のRISURUホールや近隣市のホールの催しに足を運ぶことがあるが、来場者アンケートのようなものを立川でも実施していただろうか。例えば市内と市外どちらの住人なのかということや、来場に使った交通機関などを調査しているのか。
- (事務局) アンケートは実施しているが、使用する交通機関については調査していない。利用者は市内在住が4～3割、市外在住が6～7割で大体の公演に共通している。交通手段の調査は公演の実施時期や時間帯を考慮する材料の一つになりそうなので、今後検討しての良いかもかもしれない。
- (B委員) 市史編さん事業について。現在刊行済みのものについてはどこで入手が可能なのか。また、古い年代のものから近現代に向けて順次刊行ということになるのか。
- (事務局) オリオン書房ノルテ店とジュンク堂にて購入可能である。順番については、『調査報告書』や『資料編』が先行し、まとめのような内容の『本編』はこの先になる予定である。年代順という訳ではなく、年代ごとに分かれている6つの部会があり順次刊行という流れである。
- (B委員) 計画の中にある「多様な主体や他の分野との連携・交流の促進」にある「多様な主体や他の分野」とは何を指しているのか。
- (事務局) 市内に存在する各文化芸術団体のネットワークづくりを念頭に置いている。市内の文化団体(音楽・演劇など各種の)に始まり、近隣を含めた大学や自治体などの持つ様々な文化を取り入れ、色々な分野や考え方の意見を取り入れて、より立川らしさを浮き彫りにしたいというイメージである。
- (B委員) 先ほどの利用者の割合の話でも市内在住が4割ということだが、立川市民にもっと利用してもらいたいと思う。同様にホールがある女性総合センターに比べると地理的に不利だとは思いますが、駅の北口方面の市民にとっては足が遠のきがちになってしまう。
- (事務局) 施設までのアクセスというのは利用にあたっての大事な要素だと思う。公演を考えるにあたっては、帰宅時間の交通手段によって来場者の年齢層などが変わるため、ジャンルによってはその点も考慮することが求められていると思う。
- (委員長) 多様なつながりという観点からすると、市内に拘らずに「多摩地区全体の中

立川」という役割を考えることも必要かもしれない。

(事務局) 「連携・交流の促進」という点では、計画を立てた時点では完成していなかったグリーンスプリングスとの連携もある。地域文化振興財団と関わりがある団体が、多くはないがグリーンスプリングスの事業に出演している。市民オペラの合唱がクリスマスコンサートに出演したり、7月の「#たちフェス」に団体を推薦して出演させたりしている。

(C委員) そういった市民オペラの会というのは以前からあったものなのか。

(事務局) 平成4年から数年おきに実施していたが、最近は毎年実施できている。費用、準備、労力などで大変な面もあるが何とか工夫しており、その中で合唱団やソリストとのつながりが出来てきて、支援や様々な展開をしている事業である。

(D委員) 第4次文化振興計画は令和6年度までのものであり、自分たち委員の任期と重なることになる。今期の委員というのは、第4次計画の検証という立場で良いのか、意見を言うべきなのか、どのような立ち位置で臨むべきなのかの説明が欲しい。

(事務局) D委員の発言の通り、第4次文化振興推進計画は令和6年度までのもので、令和7年度からは第5次文化振興推進計画が始まることになる。そのため、令和6年度中に第5次文化振興推進計画を策定する必要がある。

委員の皆様には事務局が作成する素案などに対して意見を頂きたい。計画の策定にあたって、市長からこの委員会あてに諮問をして、委員会から答申をもらうような流れになる。来年度は委員会の回数も平時の2回ではなく、3回以上になると思う。

(事務局) 補足をすると、配布した資料には現在の計画の体系図や到達目標が載っているが、第5次の計画でもこの形でいくのか、あるいはもう目標は十分達成できているから新しい取り組みを考えたり、要素を加えたりなどをする方が良いか、という意見を出してほしい。出された意見を第5次の計画に反映させて、今後の立川の文化の進め方の基礎を作っていきたい。

(委員長) 自分は過去の計画の策定にも携わったことがあるが、3次から4次へのタイミングでは取組方針が1つ増えており、それは当時の委員会での意見、話し合いの結果として反映されたものである。

今委員会でも、次回以降の会議で事務局が作成してきた素案や事務局の思いを、この場で揉んでいきながら完成を目指すということになると思う。

5. その他

- ・各委員からそれぞれの日頃の文化芸術活動について発言があった。

(委員長) この委員会や立川の文化行政の取組としてやりたいことや、強化したいことを発言してほしい。

(D委員) 自分はアール・ブリュットを中心にアートに携わっている。立川にはすでにファーレアートがあり都市型のアートの発信が可能だと思っている。またサブカルチャーとの合体ができるのが立川の魅力。アートを軸にして観光や産業、経済につなげていけるような、都市型アートの魅力を発信していきたいし、そこにアール・ブリュットも同乗したいと思う。

(E委員) ファーレアートやアール・ブリュットがあるというのは立川の強味。東京で行われる催しは、23区とあところか多摩地域で……となると立川で行われることが多く、立川は多摩地域の中心的な街だと実感している。ただ本当に情報発信力が弱いと思う。次回の計画ではコピーやブランディングを深めて、電子や紙媒体などそれぞれの手段で発信を強化した方がよい。

また、今回も熱意を持って市民公募の委員が2名参加してくれているが、この文化振興推進委員会の任期が明けたときに、次に何か立川の文化のまちづくりにかかわることのできる場所はないのかと思う。

あとは、第4次文化振興推進計画に記載がある観光振興計画との相互関係をより強化したい。市民満足度ももちろん大事だが、外から人を呼び込む観光の施策との連携を次の計画ではやっていきたい。

(B委員) 自分は立川在住だが、市内在住でも立川の魅力を知らないことが多い。魅力を発信する力、ワクワクするような発信の仕方というのが足りないと感じる。また、立川といえば多くの土地を所有している立飛があるが、立飛は色々と文化的なイベントを開催している(スケートリンク、スケボーパーク、グリーンスプリングスの劇場など)。市として、立飛と一緒にやる予定というのはないか。

(委員長) それはまさに、計画の「つなげる、ひろげる」に該当するものであり、ここ2・3年で同様の意見が出るものなかなか解決しないところである。従来の方では全然広がっていかない、共有できないということならば、共有するための方法とは何かを今年度は考えていっても良いかもしれない。発信と繋げるといのはずっと課題になっている。

(事務局) 立飛は自身の土地を使ってスポーツ施設を中心に施策を取っており、著名人を呼んだりスポーツ施設を誘致したりしている。市としても連携できる場所は連携していきたい。例えばスケートボードだと、サンサンロードではスケートボードが禁止になっていて、市では無料で利用できる練習場であるスケートボードパークを作った。しかしサンサンロードの手すりや段差を使って練習する人がいる。デッキや手すりが傷んだり、歩行者にぶつかりそうになったりする。そんな時に立飛がムラサキスポーツを誘致してくれた。

また、グリーンスプリングスができたことでサンサンロードに賑わいが生まれ、土日には市内のみならず市外からも結構な人が来る。そういった点からも市と連携するというのは非常にプラスになると思っている。文化の発信という点でも、

立飛は毎週土曜日にラジオで多摩の魅力を発信しており、そういうところに乗せてもらうのも一つの方法かと思う。

(D委員) 立飛はアール・ブリュットに協賛金を出すなどして活動を支えてくれている。他にもグループ会社の壁面に絵を描かせてくれたり、立飛がスポンサーをしているスポーツチームの試合会場やグリーンスプリングスで作品を展示させてくれたり、文化芸術に対して理解があると思う。

(A委員) 昔から文化というものはパトロンやスポンサーがいて、育ってきたものだと感じる。たましんもずっと以前から多摩地域全体の文化・経済などの面に関わってきていたと思うので、このあたりで討議・協議する連絡会議のようなものが出来ると良いと思う。情報発信や広告的なことは、今は素人的なものでは立ち行かない気がする。

(委員長) 確かにアート・マネジメントのような考え方をもう少し取り入れても良いと思う。アートと経済活動は無縁だという発想も以前はあったが、アート・マネジメント、デザイン・マネジメントという考え方もこれからは必要な視点だと思う。

(F委員) たましんは、昨年度も立川市と合同でそれぞれの所蔵美術品を展示する展覧会を開催したり、今年度は年明けに地域文化振興財団や市と共催・共同で立川ゆかりの日本画家の^{むらたたんりょう}邨田丹陵展を開催する。現状では色々な形で連携を取ることができており、情報も共有できているような状況である。

また、今たましん美術館では大國魂神社の宝物展をやっているが、こういった文化財を価値あるものとして展示するというのは、立川市の所蔵の文化財でもできると思う。借りることができるなら市民の方などに価値を感じてもらえる展示の開催を検討したいので、提案してもらえればと思う。

(委員長) 前年度の委員会でも、市史編さん室とたましん美術館とでもっと連携できないかとの話が出た。アーカイブをそれぞれがどう生かしていくかということも非常に大事であると感じる。

(G委員) 文化芸術というのは主観ありきでやって良い唯一の表現だと思っているので、取り組む主体者がどういう風に成果を達成できるのかを考えなくてはならないと思う。それと関連して、計画では目的に「誰もが」と付いているのに画一の指標があるということに矛盾を感じるというか、取りこぼしが出てくるのではないかと思う。

また、立川の魅力ということについて、これからの価値創造について色々な現状を踏まえて各委員から話があったと思うが、自分個人としては最近の立川は色々な魅力にあふれてきていると思う。ただ、臆んげずに見てみると「区内にもあって、立川にもある」「都内に行かなくても、立川でいいじゃないか」というような印象を全体的に受ける。文化芸術というのは、将来的なことも含めて種を撒

いていくような要素が必要になってくるので、まだ数値にもならないし、全く価値基準が定まっていないものに対しても認めるような余裕が今後は生まれてくると良いと思う。自分が今立川で活動していて感じるのは、文化芸術であるからこそその質という部分を判断すべきものが欲しい。あるいはアーティストの活動の対極として市民活動というものが挙げられるが、「市民活動＝受益者」ということになると思うが、そういう人たちがアーティストと呼ばれる存在の人たちにあまり肉薄できていないという風に思う。

(委員長) その辺りも今年度のテーマになっていくと思う。今日出た内容が全てということではないが、整理をしながらやっていきたい。では最後に副委員長。

(副委員長) この第4次文化振興計画の目標が「文化芸術ではぐくむだれもが楽しめるまち」ということで、主語が「まち」になっている。もし第4次の目標が達成できるのであれば、第5次というのは、この「まち」が文化芸術を市民に提供できるのかというところにシフトするのかなという風に思っている。

自分は立川にある芸術大学の教員だが、学校には全国から学生が立川に集まってくる。そしてここで学んで地元に戻ったり、23区に出ていったりというような意識がある。でも願わくは、やはりこの立川に残ってもらい、立川がアーティストにとって住みやすい場所として、ここを基盤に自分たちの情報を発信できれば良いと思う。G委員も言っていたが、アーティスト目線というところも一つ考えてもらえると嬉しい。

また、新しい魅力を一生懸命模索していただくだけではないという意見が多くあるが、今の立川市にも、市史編さんとか文化財とかが沢山あり、そういった今まである、今もあるものをどう発信していくかということのをこれからも続けていく必要があると思う。海外の「芸術のまち」というと町全体が全て夢のようであらやましく思うことがあるが、そういうのはどの町にもあるのではないかと思う。やはりE委員が言ったように情報発信の仕方というのは考えていかなければならないと思う。

第5次の計画を立てるにあたって、第4次のまとめをしないと第5次に進めないと思っていた。今日は各委員が多岐にわたる活動の報告をしていて、これらがどう関連付くのか、最終的に到達目標にどう絡んでいくのかということが実はまだ見えてこない。そういう分からないところを、分からない人の声をきくことによって逆につながりが再認識できてくる。そういったところを少しずつまとめながら、「まち」が何を提供できるのかということと質疑を進めていけると、自分としては今後2年間関わっていくことが楽しい仕事になると思う。